

◆◆◆歴教協第71回 埼玉大会報告◆◆◆

全国から717名が参加。第71回大会を成功させる。

第71回埼玉大会は8月3日（土）から5日（月）までの3日間の日程で草加市文化会館（全体会）・獨協大学（分科会・閉会集会）にて行われました。

第71回大会の模様を大会期間中に皆さんから寄せていただいた感想やコメントなどを紹介しながら、報告したいと思います。

獨協大学のキャンパスは、分科会会場が1つの建物の2つのフロアーにまとまっていたため、人の移動や各分科会への連絡も行いやすく、ICT設備の整った教室など、歴教協の大会を行うには非常に便利な会場でした。施設利用に当たって、関係された方々に改めて感謝したいと思います。

また、今大会では、「ユーススタッフ」の方々が大会の運営で大活躍！スタッフの運営を若者だけで行い、大会を支えていったというのは歴教協にとって新しい経験となりました。参加者の数もありますが、若者参加と内容面では数字だけでは捉えきれない成果があったのではないのでしょうか。

新学習指導要領を巡る様々な問題、部活動指導に関わる問題、私たち教員の働き方に関わる課題など日本の教育を巡る情勢は激動の時代を迎えております。また、政治課題としても日韓関係の問題や日本国憲法改悪へ向けた動きが取りざたされるなど予断を許さない状況が続いている中での大会開催となりました。参加者の皆さんの協力により、非常に豊かな実践交流を行うことができました。その成果を明日につなげていくことができればと思います。

●全体会には624名が参加！「わいわいトークタイム」など工夫をこらした内容の全体会が行われました。



けやき学園と埼玉エイサー隊の皆さんが私たちを迎えて下さいました。

全体会は、草加市文化会館において行われました。

今年の大会テーマは、「ともに生きる、ともに歩むー対話からひらく未来」として開催されました。

基調提案では、歴史教育者協議会委員長の山田朗氏から提案がされました。加害・被害を含めての戦争の記憶の継承、植民地支配・占領地支配の記憶の継承は、その実体験者からの非体験者への継承ではなく、非体験者から次世代非体験者への継承へ、残された物証のさらなる発見や再検証がメインストリームになっているとし、次世代非体験者が継承できる記憶をわかりやすい形で再構築していかなければ、記憶の継承は先細りするばかりであると指摘されました。体験者の子の世代からの継承は、聞き出し方によっては非常に有望なものであるが、放置しているとナショナリズムの方向にいつてしまう危険性がある。どのような重要な記憶でも容易に忘却してしまうという弱点、場合によっては加害などの都合の悪いことをみようとしない弱点がある。この弱点を意識化し、交流と対話を広げることで、私たちの実践の中から歴史認識のバイアスを克服していくことが大切であるという提起がありました。

●「記念講演」は、『学校をカエル！ー「教育」の病から脱け出すために』と題して内田良さんから講演をいただきました。

基調提案に引き続き、内田良さん（名古屋大准教授）の記念講演、上尾市原市中学校の実践報告が行われました。



講演される内田良さん

内田さんからは、現在取り組まれていることを「エビデンス」からしっかりと分析する。また、教育活動が「サステナビリティ」が担保されているものになっているのかどうかを点検する必要性についてふれられました。「教育」は特殊だからという理由で時間管理なき長時間労働が容認される。教育の一環だからという理由で、暴力加害／被害がなかったことにされる。学校の風通しをよくしていくため、私たちも声をあげていく必要があるとお話がありました。

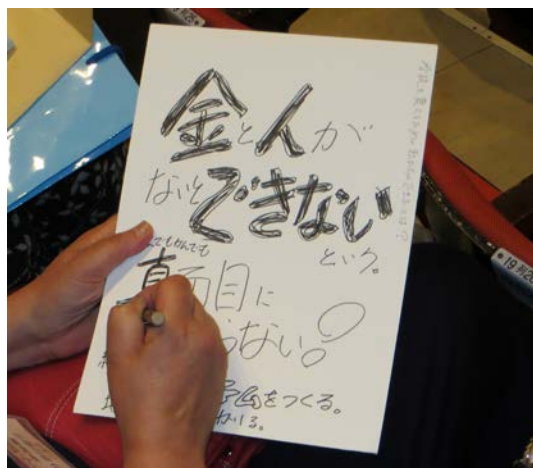
「地域実践報告」は『ともに生きる、ともに歩む一子ども・教師・地域がともに学ぶ未来とは』と題して取り上げられました。

その後、全体会初の試みでもある「わいわいトークタイムの時間となり、参加者が



トークタイムは前後でわいわい語り合い、盛り上がりました！

3人一組のグループになって「授業を変えるために私たちにできること」と「学校を変えるために私たちにできること」という2つのテーマで話し合いました。20分間の短い時間でしたが、わいわいがやがや楽しく語り合うことができました。



トークタイムで話したことは、シートにまとめ、ディスプレイで紹介されました



みなさんが記したシートは、獨協大学でも期間中に展示されました

以下に全体会の感想をいくつか紹介いたします。

「3人で話し合う機会はとてもよかった。内田さんのリスクに対する考え方、制度設計のないところが問題である、という点に大きく納得できました。授業を変えるという問に対して、多くの分科会では①何を②どのように教えるか③そのことで子どもにどのような変化や成長が見られたか、の3つのうち①、②ばかりが報告されているのではないかと考えています。授業を変えるには、③が大切になるのではないのでしょうか」「子どもたちのために先生方がどれだけ熱心に自ら学ぼうとしているか、そうした先生方が全国にどれほどいるか、ということを目にして、この憂うべき時代に光をみる思いです。この取り組みがもっと社会にひらかれたものとなることを望んでいます。」「チャレンジ企画・精神満載でした。現場の先生たちと共につくろうっていう企画良かったです。内田さんが“子どものため”ってやるのではなく「ツライ」って言わなきゃって言われたけれど、すぐにうんと言えない自分がいます。

パネルディスカッション、トークタイム、自然体の高校生が聞きたいこと言いたいことを言っている姿をみて井村さんの実践の豊かさを知ることができました。80歳以上の先輩たちとのトークもたのしかったで



高校生も大いに語ってくれたパネルディスカッションは見応えがありました

す。」「内田さんの講演を聞いたのは2度目であったが、以前よりもエビデンス、サステナビリティを基に学校を考える、という観点がはっきりしていて、内容も分かりやすかった。地域実践報告「ともに生きるともに歩む」の実践、とても良かったです。自分たちがつくる経験をした子どもは、自分から学びを求めるようになるのではないかと感じました。子どもたちのことを信じる大人でありたいと思います。」

「私は、生活科や総合学習は、子ども、生徒を本物に育てると思う。地域の人々の戦争や共同活動で生徒は字面じゃない、本物を学べる。そういう中で基礎学力以外の構想力や創造力、思考力や批判力や応用力や、人間として身につけたい力が育つと思う。」その他にも「“対話”が全体会のすみずみに生きていてよかった!」「内田さんの講演で勝手に誤解していたことがわかりました。(組み体操とか部活全廃論者かと思いきや違いました)。」「パネルディスカッションも面白かった。台本のない展開の中で高校生の率直な意見や疑問も出て楽しかった。」「三人で話し合う機会はとてもよかった。」など、今大会の全体会の新たな取り組みについて評価をする声が寄せられています。

●分科会で多くの充実した実践が報告される

全体会の翌日からは、二日間かけて分科会が行われました。優れた実践が多く報告され、熱い議論が交わされました。参加した方々の感想を紹介し、分科会の様子的一端を紹介します。

・第3分科会「日本近現代」参加者

ほとんどが戦争（アジア太平洋）についてのものだった。授業実践・報告レポートとともに今後の授業にいかしていきたい。戦争そのものを伝える上で、他人事ではなく、どのように主体的に捉えさせるのか。それ

を考えた時に「戦争」と「戦場」を教える、事実をリアルに伝える、これが大切だと感じました。(東京 30代)

・第3分科会「日本近現代」参加者

戦争責任とか荷担とか、むづかしい言葉が出てきました。どこまで？どのくらい？とってしまうこともあります。ともあれその時代(戦争の時代)に生きた人たちは、私たち(戦争を知らない)に「あなたも荷担したの？」と問われたら、何を応えるだろうかと思ってしまうました。しかし、このような視点はやはり大切なのだらうと思えます。(千葉 60代)

・第5分科会「憲法と現代の社会」参加者

普段の学校の授業は地域の小中学校しか見学できないので、色々な学校で実際に行われている授業の取り組みを聴くことができ大変勉強になりました。先生方が憲法の授業で何を重視しているのかなど知りたかったので来ました。今の高校生がハイレベルな内容にちゃんと自分が意見を言えるのがすごいと思えました。(東京 50代)

・第7分科会「現代の課題と教育」参加者

若者の政治的無関心や社会的な問題に関わろうとしない傾向に対して、私たちがどのような実践をすべきか。全国規模の大きな課題ではなく、各地域に見られる具体的な課題について、その解決方向や具体策を考え行政等に働きかけ、政策化され実際に動き出したという実感を持たせることが有効ではないかと思えます。(滋賀 60代)

・第13分科会「小学校5年」参加者

教科内容について、これだけ詳細にそして社会のあり方をふまえた上で研究している先生方のお話を聞いて大変勉強になりました。児童のコメント、発言についてもう少し検討したい気も思いました。

(栃木 20代)

・第13分科会「小学校5年」参加者

5年生の工業学習は「自動車」と決められているわけではありません。教科書がそ

うなっているためか、市販のテストを購入していると「テストに出ているから・・・」という理由で「自動車工業」を学習している学校の何と多いことか。地域に自動車関連工場がなければ食品工場や他の工場メインで取り上げてよいわけです。

これでは授業をカエルことも学校をカエルこともできない。指導要領を完全にムシできないのではあるが柔軟な発想で授業を考えていくことはできないだろうか。

(三重 50代)

・第14分科会「小学校6年」参加者



歴史学習、憲法学習、人権学習と6年生の今だからこそ子どもたちと共に学びたいと思える内容、その報告を聞くことができ、勉強

になりました。

また、韓国の小学校での実践も興味深く平和的に共存していく関係を築いていくために日本で何ができるのかということを考えていくきっかけとなりました。

(神奈川 50代)

・第17分科会「中学歴史」参加者

夏休みに入っても、部活やら初任研やと追われる中でやっぱり来てよかったと思わせてくれる内容でした。全体会の方で、教員のブラックが叫ばれていますが、やはり教員は、磨かなくてはいけないもの、学ば



なくてはいけないものが多すぎて手がつけられないのが現状です。そこで1つの助けがこの分科会でした。次、絶対実践しようという報告づくしで助かりました。

(埼玉県 20代)

・第21分科会「障害児教育」

インクルージョン、インクルーシブ教育について、障害児にとっても通常学級の子どもたちにとっても有意義なものであると思いつつ通常学級の子どもたちにとってメリットが大きいと感じていました。今回レポートを聞き、障害児にとっても、受け止めてくれる通常学級の子どもたちがいたからこそ「～したい」という思いと意欲をもてたとの指摘を受け、障害児にとっての意義を改めて考えることができました。

(茨城 60代)

●地域に学ぶつどいには374名が参加

8月4日(日)分科会終了後に地域に学ぶ集いが行われました。バラエティー豊かな講師陣、そして集いの内容に豊かな気づきや学びをさせていただきました。

多彩な企画内容の集いを用意してくださった現地実行委員会の皆さん、本当にお疲れ様でした。参加者からの感想を紹介します。

・「古墳時代をもっと楽しく」参加者

古墳時代は分からないことが多く、興味をそそられて参加した。出土した埋葬品などから物語をつむぎ出す。(科学的な)ところが、おもしろいと思った。これからの解明がまた楽しみになった。(福島会員)

・「秩父事件135周年」参加者

秩父事件の詳細と、どこまで明らかにされているのかがよくわかりました。また、今日的課題についても知れました。政治状況に、ストレートに自由、民主主義を表現、実行していった秩父事件は、今日でも有効

かと思います(今の政治、社会状況について)。(大阪 会員)

・「埼玉にもあった関東大震災時の朝鮮人虐殺」参加者



自警団の動きは権力側に不安をかきたてられてのものである

ことがよくわかった。裁判がおこなわれていたことは、詳しく知らなかったので大変参考になりました。いつも授業をしていたので、今回の学習をまた生かしたいと思います。(秋田 会員)

・「原爆の図 丸木美術館と日本・世界を見る眼差し」参加者

美術館に行ったことがありませんが、話を聞いてぜひ行きたいと思いました。昔、教科書に掲載されていた記憶があり、それで、初めて知ったと思います。とても印象的で記憶に残っています。これらの図を通して、生徒たちと学べたらと思いました。

(島根 Yさん)

・「子どもたちに語り継ぎたい撫順の奇蹟」参加者

荒川さんの思いにふれることができよかったです。ありがとうございました。授業で使いたいと思っても、なかなか上手に証言や映像をさりとることができません。今後、頑張って作ってみたいと思います。(沖縄 会員)

・「川口夜間中学校の取り組み」参加者

定時制に勤務しているので、ちょっと関連があると思い参加した。直ちに何が、どう、というわけではないが、夜間中学が何かということがよくわかってよかった。

(少し疑問もあったので) ボランティア
でやっていることが単純にすごいと思
いました。(香川 会員)

・『「父と暮せば」を演じてみませんか』
参加者

父、娘の関係性も世代で変わっている。
その関係性の中から何がしあわせか。何が
答えなのか? 多数の組み合わせでいろい
ろな父娘の時間の流れがあるおもしろさがあ
った。(群馬 Tさん)

・『教室ですぐに生かせる勾玉づくり・糸
紡ぎ』参加者



綿くり器は家で使っていますが、糸車は
購入してあっても使うことができず、何と
か使えないかと思っていたのですが、今回
教えてもらったので、さっそくやってみよ
うと思います。(三重 Sさん)

●閉会集会—埼玉大会を振り返り、愛知/
東海大会へ向けて

今大会は、閉会集会まで“対話”という
テーマが貫かれた構成となっていました。
閉会集会は、～「対話」の先に何があるの
か～と題して行われ、本部の挨拶に続き、
①安田純平インタビュービデオ上映②全体
会を振り返って③参加者4名の方の発言
(「日韓交流について」「新学習指導要領
に基づく小学校教科書分析」「『憲法と現

代の社会』で発表された性的マイノリテ
ィーの授業実践に関わった大学生の感想」「初
参加者の中学校教師の感想」) ④閉会行事
というプログラムで流れて行われました。
参加者からは次のようなコメントが寄せら
れています。

「全体会と合わせて「対話」を意識した新
しい形式について、一つのチャレンジとし
て受け止め、会員の意識や要求に見合った
集会(内容)を会員全員の声・アイデアを
結集して作っていただきたいと思います。(滋
賀 60代)」「対話というキーワードにこだ
わっての集会には考えさせられました。大
学1年生のスピーチの中に性的マイノリ
ティの方が目の前にいるということをも
ふまえて発言してほしいとありましたが、こ
ういう自分の言葉でのスピーチなど、よか
かったです。(島根 40代)」「対話は学校
でも、労組でも国際間でもキーワードでい
ろいろな会でよくやります。年配者は慣れ
ていないので一方的に話しがちですがくり
返しることにより自分の財産になる対話に
なると思います。対話は対等平等であつて
こそ成り立つものです若手もベテランも同
じ地平に立って未来を語り合えれば自ず
と開けていくと思う。(静岡 50代)」「現
地からの報告の意図が分かりにくい感じ
でした。対話は重要です。そこには耳をか
さない政府の存在など、政治・民主主義
の実践としての対話には、支配、権力の
問題があると思います。だれもが平場
で対話できる条件があるわけではないと
沖縄で住んでいて思うのです。自己中心
と学術に立脚することの違いはもっと明
示して対話したいと思います。(沖縄 40
代)」「安田さんのインタビュー企画、と
ても良かったです。話の内容もおもしろか
ったし、企画の発案も良かったです。対
話形式のやりとりがはじめてで、自分
も含めて、ちょっと戸惑いの雰囲気があ
ったように思います。(東京 40代)」

この他にも閉会集会について寄せられたコメントには、「閉会集会のあり方も検討が必要だしコンセプトをよく考えるべきだ」とつくづく考えた」や「埼玉が提起したものを一過性にしてはならないと考える」というものがありました。今埼玉大会で新たにチャレンジした内容、様々な場面で参加者で学び合った内容を多くの方々と共有化し、今後の歴教協の取り組みや授業実践で、深めていければと考えます。

恒例の大会開催地引き継ぎでは、埼玉からお土産や大会の資料などがメールと共に愛知／東海ブロックの方々におくられました。

**埼玉の皆さんお疲れ様
でした！来年の愛知/
東海ブロックの皆さん
へ無事に引き継がれま
した！！**



ユーススタッフの方々のエネルギーに支えられながら多くのことを交流し、学び合うことができた大会であったと思います。

次回愛知／東海大会では、身近にいる仲間（特に若手教員）を誘って参加し、歴教協の良さを感じてもらえるよう、更に内容のある実践交流をしていきましょう。